From Kobe 2008
【02】

From Kobe 2008 年2月　日本人の祖先の一部　節分の「鬼」

2008.2.3.　by　Mutsu NAkanishi

２月になって、寒い日が続いています。
新しい年になって　あっという間に２月です。　１月は「穴熊」　今年の抱負・目標は・・???　などと聞かれることもないままに、冬眠。　そろそろ　動かないとと・・・・。
暗い話ばっかりでいやな時節ですが、今年も精一杯「動　ただひたすらに」　これしかないなあ・・・と。

２月３日は節分。この時節になると「鬼」の話が話題になる。
「鬼」というと日本各地には「鬼伝承・伝説」があって、「いい鬼」・「悪い鬼」が話題になる。
今日もラジオでは　節分で豆をまくのに「福は内　鬼も内」と豆をまく里を紹介しています。
この「鬼」とは何者なのか　「鬼」の名前には、かつて「製鉄」の集団」と関連したところが多く、「鉄」の生産活動が、周囲に数々の文化を伝え、生活環境を変えていったため、「いい鬼」「悪い鬼」がおり、また、その地の「開拓神」として、祭られることもあり、数々の伝承・伝説とともに日本各地に「鬼」の名前のつく土地・山が残る。
幾度となく訪れた東北の各地で、東北の人たちの蝦夷と呼ばれた時代の人たちへの強い愛着と近親感に新鮮と驚きで強烈な印象を受けたことがあり、この時期「鬼」の話になるといつも気になるのが、東北の「鬼」。
新しい年になって「今年は・・・」と自分を省みる時期とも重なって　毎年　この「鬼」なについて、思いをはせる。
そんな折、今年は１月１０日　朝日新聞に「祖先たる『蛮族』蝦夷」と題して、「古代東北の「蝦夷」と呼ばれた人々が異民族でなく、日本人の祖先であるとわたしたちを呼び起こす」記事が出たのをみましたので、あわせて紹介。

坂上田村麻呂と蝦夷の族長「アテルイ」

朝日新聞（夕刊）2008年（平成20年）1月10日　木曜日

ニッポンの面　おもて　其の弐

祖先たる「蛮族」蝦夷

弓矢・騎馬　武士に継承

国宝にもなった豪華な太刀や鎧が出土した、京都市山科区の「西野山古墳」が、坂上田村麻呂の墓だったという記事が新聞各紙をにぎわせたのは昨年の6月。田村麻呂（758～811）は、平安時代初期に活躍した将軍だ。

桓武天皇（737～806）によって都が平城京から長岡京、平安京へと移された8世紀末、田村麻呂は現在の東北地方北部に住む「蝦夷」と戦い、現在の岩手県・北上盆地を平定した。この蝦夷とは、どんな人々だったのだろう。

「日本書紀」は、「冬は穴に寝て、夏は木の上の巣に住む。毛皮を着て、血を飲み…」などと蝦夷の野蛮さを強調している。だが、熊谷公男・東北学院大教授（古代史）は「こうした文章は、中国で『蛮族』について書く際の定型的な表現でしかない」と話す。

文献研究や発掘調査の成果で、蝦夷が竪穴式住居に住み、かなり広い範囲で稲作をしていたことも明らかになってきた。しかしその生活は、天皇中心の「律令国家」の内側に住む人々とは異なる点も多かったらしい。

熊谷さんは、蝦夷が弓矢と騎馬の術に長けていたとする、という記述が史料に何度も表れる点に注目し、彼らが馬を剣に、馬上から弓矢で狩りをしていたのではないかと推測する。「馬飼いも狩猟もチームワークが必要。後世の騎馬による集団戦法は、まさに蝦夷の生活から生まれたのでは」

律令国家と蝦夷の全面的な戦争は、桓武の父・光仁帝が在位中の774年に始まった。「表向きは、蝦夷が国家の築いた城を襲撃したのがきっかけとされるが、実際は攻撃の準備を進めていた国家側に蝦夷が先制攻撃をかけた。実質的には国家側の一方的な侵略戦争だった」と近畿大の鈴木拓也准教授（古代史）。

国家側は蝦夷の騎馬戦術に苦戦した。789年に桓武が送った軍は、アテルイ（阿弖流為）という蝦夷に破られた蝦夷軍に大敗。そこで桓武は794年に10万の大軍を送り、この時、田村麻呂は副将軍として活躍した。さらに801年、田村麻呂は征夷大将軍となって4万の兵が投入され、現在の岩手県南部が平定される。翌年、アテルイは胆沢（現在の大阪府東部）で処刑された。

アテルイとモレの処刑地は枚方市北部だとする説があり、地元の人たちが記念碑を建てて顕彰している。しかし枚方市史資料調査専門員の馬部隆弘さんは「枚方市北部は当時、天皇の狩猟地である『禁野』で、蝦夷の血で汚れることは避けたはず」と懐疑的だ。柳やかな田村麻呂の墓が「再発見」されたのと対照的に、2人の蝦夷の英雄が葬られた場所の手がかりは、あまりにも少ない。

アテルイらの処刑後、反乱を防ぐために蝦夷は律令国家の各地に移住させられた。

「独自の生活様式を変えずに蝦夷がトラブルを起こした記録もあるが、ほとんどの地域で周囲に同化していったでしょう」と熊谷さんはいう。蝦夷の子孫は、東北だけでなく、全国に広がったことになる。

だが、騎馬と弓矢を使う蝦夷の戦法は、後に登場する武士に引き継がれていく。現在の私たち日本人にとって、蝦夷は異民族ではなく、祖先の一部なのだ。

市川染五郎演じる蝦夷のリーダー「アテルイ」＝松竹提供

青森の岩木山（巌鬼山）の山麓にある鬼沢集落は「鬼の里」を名乗り、鬼神社を祭り、
「鬼の里　鬼沢」のねぷたが弘前の街を行く。
また、東北の背骨奥羽山脈は「北上（日高見）の鬼」と呼ばれる「蝦夷の族長　アテルイ」の領地。
ここでは、自分たちのルーツとして　連帯・近親感を持って、熱く熱く語られる。
岩手県民総参加で創られた長編アニメ映画「アテルイ」では「アテルイは親・兄弟を愛し、美しい自然を愛すために生きた。

２１世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある　」とメッセージを送り、
北上市の市民憲章には「　あの高嶺　鬼住む誇り　音の瀬音　久遠の賛歌　この大地　燃え立つ命　ここは北上　」と歌う。

関西や西日本の「鬼」　丹後大江山・鳥取大山(伯耆溝口)・岡山吉備　鬼ケ城の鬼　等々退治される鬼とは対照的である。
冷静に考えてみれば、この「鬼」　関西人の僕らにとっても　同じルーツ・仲間なのです。
どうも　都に近いところで育ったものと地方の人たちの意識の違いの大きさに戸惑いを覚えたことがありました。

今の「東京・大阪」と「地方」の違い　そっくりそのままではないでしょうか・・・。
若者と年寄り　大企業と中小企業の構図も。
中央一辺倒の流れが続く今、地方に目を向け、目を凝らさないとこの意識の違いや全体が見えないのでは・・・

切捨ては　効率で　かっこよく写るのですが、　必ず　行き着く先は　行き詰まること歴史が示している・・・。
あまりにも悲観的なのですが、その貧乏くじをひくのも・・・。
その時　自分の身に起こるまで気がつかぬのでは、あまりにもさびしい。
全体を揺るがす逆風を経験したことのない日本の中央では　足元が見えず、しかも、リーダーお任せの無責任な時代　ちょっとは　地方の意識にも　耳を傾けないと　自分の足元がぐらついていることに気がつかない。

年が変わり、節分の時節「鬼」が話題になるといつも　東北の「鬼」を思い出しながら、自分を振り返りつつ、こんなことが気になります。
また、　中央の論理で議論されている道州制が　東北では　仙台へ向かう東北各地からのきめ細かい高速バスネットワークを始め、東京に向かうのではなく、仙台を東北の中核都市とした人・物の動きが大きな流れとなって進行しているという。
同じ　流れは　西の福岡でも始まったと・・・・。
中央では見えぬ２１世紀の新しい胎動が始まっている。これは　中央が動いても　もう　つぶれない流れ。
何でも東京　そして　関西ではないし、すでにその間に　名古屋が割って入り、仙台・福岡で新しい動き。
おりしも、人の意識はすでにインターナショナルな日とも急激に増加。
TV ・映画では　僕らはまだ外人と思っている人が、日本語をしゃべり、若い人たちはコスモポリタンに。
古代に起こった新しい国づくりの胎動が　今　２１世紀の胎動が起こっている。
本当に　地球に優しい　地球人の時代が来るように
ヨーロッパも、日本と同じかと思いましたが、、そうでもなく、ゆったりとした時間が街に流れている。
アメリカだって、救いはある。　ゆるやかに　大河が流れるように　地道に時代が流れていると感じました。

「ただひたすら　動　」
もっとも　好き勝手に　思いつくまま　気の向くまま　かもしれませんが・・・

節分の「鬼」に思いを寄せながら・・・
2008.2.3.　Mutsu Nakanishi

和鉄の道　Iron Road 【2】製鉄遺跡探訪 2001 & 2002 上
10.日本各地の鬼伝説　鬼伝承の鬼は本当に悪者か???　2003.2.3.
和鉄の道　Iron Road 【1】製鉄遺跡探訪　1995.10.-2000.5
8.弘前ねぷたと岩木山北麓　鬼伝説の里　鬼沢　鬼神社・十腰内　巌鬼山神社を訪ねて　2000.8.4.
和鉄の道　Iron Road 【4】製鉄遺跡探訪　2004
6.蝦夷の鉄・東北　和鉄の道　東北地方　和鉄の道　9編　取りまとめ　2004.1.18.
和鉄の道　Iron Road 【6】たたら遺跡探訪 2006
3.蝦夷の雄「アテルイ」の足跡　「清水寺・将軍塚」　2006.2.9.

参　考

日本各地の鬼伝説　リスト

1. 伯耆国　孝謙天皇　鬼退治伝説　鳥取県　溝口町
   日野川流域　楽楽福神社の伝承
2. 北上の鬼　蝦夷の雄「アテルイ」　岩手県一関・胆沢
   坂上田村麻呂の蝦夷征伐
3. 丹後国　大江山酒天童子伝承　京都府　大江町
4. 吉備国　「桃太郎伝説」の鬼ケ城　岡山県総社市
5. 青森県　岩木山(巌鬼山)山麓の鬼伝説　青森県弘前市・鰺ヶ沢市

青森　岩木山(巌鬼山)山麓　鬼の里「鬼沢」

【鬼沢のねぷた】

津軽　岩木山麓　鬼沢に伝わる「鬼伝説」
青森県　弘前市　鬼沢

昔々このあたりはやせた荒れ地で、作物の実りはきわめて悪かった。そこへ、岩木山の赤倉から下りてきたという鬼が現れ、せっせとこの荒地を耕し始めた。 村人達は、これを見て、ただの鬼ではないと思い、開墾の困難と農業用水の必要を鬼に訴えた。
すると鬼は、それでは力を貸そうと言ったきり、姿を消してしまった。翌朝になって村人たちが行ってみると荒れ地には、一筋の水の流れが勢いよくほとばしっているではないか。
村人たちは、さっそくその水を田に引き、以後、その水は干ばつの時も決して枯れることはなかったという。
村人たちは、非常に喜んで、鬼に感謝するため、神社を建立して「鬼神社」と名づけ、村の名前も「鬼沢」としたという

鬼神社鳥居

鬼伝説の里　「鬼　沢」の集落　弘前市鬼沢

鬼神社社殿

【鬼神社　社殿正面に掲げられた農機具の献額】

北上(日高見)の『鬼』・蝦夷の族長「アテルイ」

岩手県北上市の市民憲章には
「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の賛歌
　　この大地 燃えたついのち ここは北上」
と誇らしく歌う
この「鬼」とは古代「日高見(北上)川」沿いのこの地に住んだ自分たちの祖先 蝦夷の族長 日高見の鬼「アテルイ」とその一族　蝦夷　を指す

今から約 1200 年前　奈良時代の末期から平安時代初期にかけて坂上田村麻呂を征夷大将軍とした蝦夷征伐があった。
坂上田村麻呂がでるまで、朝廷が苦しめられ続けた蝦夷の族長が「アテルイ」
この蝦夷征伐のもうひとつの側面は今まで輸入に頼っていた「金やくろがね」がこの蝦夷の支配地ででたことによる鉱物資源の支配
朝廷の蝦夷征伐の大軍を苦しめぬいた蝦夷の族長がアテルイ。
蝦夷の心情に共感しつつも戦わねばならなかった征夷大将軍坂上田村麻呂
長年にわたる戦争の中で、アテルイは蝦夷の和平を願い、盟友・モレと約５００人の兵とともに田村麻呂に降伏。
坂上田村麻呂の「蝦夷支配に活用できる人材」と助命嘆願もむなしく、アテルイは河内国で斬首。

岩手県民総参加の運動で完成されたアニメ映画「アテルイ」

京都 東山 将軍塚より 京都市街地全景 2006. 2. 9.

大日堂とその寺域の中にある将軍塚　2006. 2. 9.

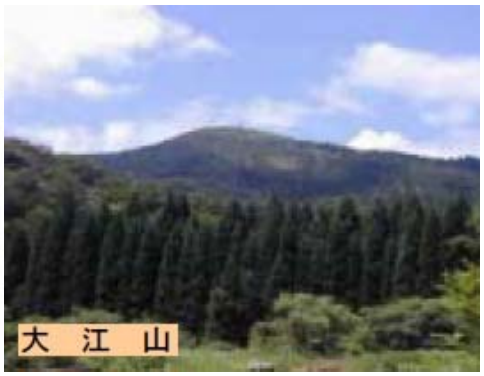
「アテルイは親、兄弟を愛し、美しい自然を愛すために生きた。
２１世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある」
と東北の人達はメッセージを送る。

【参 考】

巨大勢力となった寺から逃れる為、奈良
平城京から平安京へ遷都されたこの時代。
東寺・西寺しか許されかった平安京に蝦
夷の制圧に成功した坂上田村麻呂は国家
加護の道場として清水寺の建立を許されている。
東北にある蝦夷の勢力の強さがこのことからも推察される。
また、坂上田村麻呂の頭の中に蝦夷の族長「アテルイ」への思いがあったかも知れぬ。
その背後の東山　坂上田村麻呂が葬られた地には「将軍塚」の名前が今も残されている。
東北の地にも、大将軍　将軍通りなどの地名が今も残る。

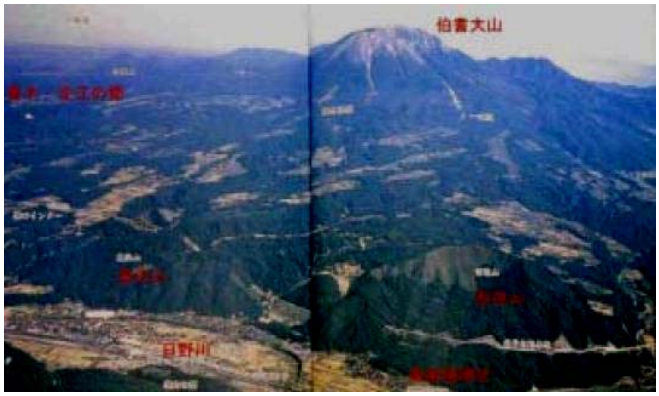
清水寺　南の谷に面する清水の舞台下の丘にある　アテルイ・モレの顕彰碑

福島県　沼原(ぬまっぱら)揚水発電所　上池貯水池　と　沼原湿原



安達太良連峰　鬼面山　新野地温泉より

55℃の含鉄泉　赤

孝霊天皇 鬼伝説 伯耆　溝口　-楽楽福神社　古文書より-

伯耆の国日野郡溝口村の鬼住山に悪い鬼 が沢山住み着いていました。
この鬼達は近くの村々に出ては人をさらったり、金や宝物・食べ物を奪って人々を苦しめていました。
これを聞かれた孝霊天皇は、みずから軍勢を率 いて鬼住山の南のこれより少し高い笹苞山(さすとさん)に登り、鬼住山の鬼達をことごとく退治され ました。
天皇が山に登り、布陣された時、人々は笹巻の団子を献上し、士気が大いに上がったといいます。
それで、この山を笹苞山(さすとさん)と呼ぶようになりました。
鬼をおびき出す為、山麓の赤坂というところに団子を三つ並べたところ、弟の鬼『乙牛蟹』が出てきて討たれました。
兄の『大牛蟹』は大いに怒り、手下を束ね一層暴れ、容易に退治することが出来ません。
ある晩　眠っている天皇に「笹の葉を刈って山のように積上げなさい。そうすると風が吹いてそれらを舞い上げ、鬼を遅い退治出来るでしょう」とのお告げがあった。これを聞いた天皇がその通りにすると三日目の朝、猛烈な南風が吹き、積上げた笹を「あれよあれよ」と鬼の住処の方へ、巻き上げて行きました。天皇はここぞとばかり、全軍を叱咤して、舞いあがった笹の後を追い、鬼退治に向かいました。
笹の葉に巻きつかれ、また枯葉が燃え、鬼達はなすすべも無く、麓に逃げて降参 しました。
人々は大変喜んで　麓宮原の地に笹で社殿を吹き天皇を祭りました。
これが楽楽福(ささふく)神社のいわれです。